

ヒロセ電機株式会社

2021年3月期 第3四半期 決算説明会 Q&A 要旨

Q1：

4Qの売上・営業利益、3Q比からの減少は季節性を織り込んだものか。

A1：

季節性と一部の生産調整を織り込んだもので、市場環境をネガティブに見ているわけではない。

Q2：

株主還元方針のアップデートは予定どおり次回に予定しているか。

A2：

そのとおり、準備を進めている。

Q3：

4Q売上は3Q比で減額幅が大きいですが、受注残が減少している要因もあるか。

A3：

足元の受注状況は順調で注残も減少していない。

Q4：

自動車向けの来期の方向性が知りたい。

A4：

今年度の全体売上増加は、総括的に主に既存品の増加であり、来年度は純増での積み上げを目指したい。自動車向けは上期停滞してやや後ろ倒しになったが、今後成長を実現したいと考えている。

Q5：

コスト上昇に関して、材料費は金価格上昇に伴ってどの程度の影響か。

A5：

今年度はコロナの影響もあり金価格が高騰して材料費が上がっているが、省金の検討も含めコストダウン施策で巻き取る努力をしている。

Q6：

自動車向けの動きが非常に強いが、地域やアイテムでみて特徴はあるか。

A6：

中国向けや日本の OEM の回復は感じている。但し、欧米向けなど回復が今後のところもある。

Q7：

3 Q の受注について。BB レシオ、10～12 月の流れについて知りたい。

A7：

3 Q の受注、スマホ向けはダウン、一般産機向けと自動車向けはアップした。

Q8：

生産能力に関して、分野別等で不足しているところはあるか。

A8：

今期は、分野別も品種的にも広く、比較的多くの既存品の増産対応のため、稼働率は高いが、大きな生産キャパ不足にまでは至っていない。

Q9：

環境規制対応車向けの取り組みがあれば知りたい。

A9：

当社も取り組みを活発化しているが、単年度の取組みでなく中長期的に継続するものと考えている。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。